



▶ ㊦

▶ ㊦

▶ ㊦

▶ ㊦

▶1 口にコーヒー ㊦

▶2 見たいものばかり ㊦

▶3 オレンジペンキ ㊦

▶4 Stand By Myself ㊦

▶5 しょっちゅー華 ㊦

▶6 午後1時 ㊦

▶7 ホワイト×ブラック ㊦

▶8 街路樹 ㊦

▶9 君の寝息を守りたい ㊦

▶10 突然の雨と甘いジャム ㊦

▶11 気象庁

口にコーヒー

暴力的な僕に

君がコーヒーを運んできた

落ちついて飲むことにした

まだ口に入れたばかりなのに

なんだかいい香りがする

泣いていいなら泣こうか泣けないな

「おいしい？」なんて

今すぐ尋くのはやめてよ

飲んでたら何とも言えないじゃん

待って去っていかないで

口にコーヒー入れてたら

「ありがとう」が言えないじゃん

「おいしい？」って

君はよく尋く

何も応えないともっと尋く

おいしいものだから

すぐに返事できないんだってば

のどを通るまで

ゆっくり味わいたいのにな

悲しい顔を

するのはやめてよ

口に物入ってたら何とも言えないじゃん

去っていかないで

「ありがとう」が言えないじゃん

見たいものばかり

エジプトのピラミッド
ナイアガラの滝
北欧のオーロラ
エアーズロック
アフリカの集落

旅行に行きたいな
いつかすべてが始まったら
隣県だって一人で 行けないのにな

隣県のすべてを知っているわけでもなく
自分の県さえよく知らないのにな

メガネを外してる
ここには見たいもの
何もない

見た事ない
世界がきっと外にはあって
ゲームやLINEなんかで完結しちゃいけないよな
本当は僕だって
メガネをはめて
外の世界にはもう 見たいものばかり

甲子園
スケートのリンク
日光東照宮
暴風雪警報
富士山と樹海
ナイル川
リオのカーニバル
エベレスト

旅行に行きたいな
いつかすべてが始まったら

どこまでだって行けるような気がする
世界中にはだってもう
僕らの見たいものばかり

エッフェル塔
ドバイの高層ビル
遊牧民
地中海の白い街
マリーナベイサンズ
タイの市場
サグラダ・ファミリア

オレンジペンキ

オレンジのペンキを
頭にぶっかけたら
怖いものなんて何もなくなった
今度僕が 白いペンキを
頭にぶっかけたら
どうなるのだろうか？

昔はペンキなんてなかった
ただの黒髪だった
夜の闇ならまだマシで
ゴミを漁るカラスのような
まっ黒髪
日にあてても
まっ黒髪

アーアーと鳴くカラスに
アーアーと返事してみた
見事に返事が返ってきた
そんな自分が嫌だった

オレンジのペンキを
頭にぶっかけたら
見るもの全てがクリアになった
今度僕がピンクのペンキを
頭にぶっかけたら
優しくなれるだろうか？

もうメガネなんて
いらんよ
いらんよ
さっき捨ててしまった
だって見えるものは
色とりどり
メガネよりはっきり見えるんだ

視界が生きてる
僕は生きている

オレンジのペンキを
かぶった僕は
本当の姿ではないのだろうか？
嫌だ
嫌だ
戻りたくない
まっ黒なカラスに
戻りたくない

本当の姿なんだろう
ようやく出逢えたんだろう
完全になるために
生まれてきたんだろう

オレンジのペンキを
頭にぶっかけたら
本当の姿 見つけた
これが僕

これが僕

今度僕が
青のペンキを
頭にぶっかけたら
どうなるのだろうか？
冷静になるのかな？
今度僕が
虹色のペンキを
頭にぶっかけたとしても
虹に触れるようにはならないだろう

オレンジのペンキを
頭にぶっかけたら

怖いものなんて何もなくなった
オレンジのペンキを
頭にぶっかけたら
見つけた これが僕

Stand By Myself

日本のどこでも昼休みだよ
たぶん考えすぎてる
もう5日経つけど メールが返ってこないよ
Twitterも見るのが怖い

どうせ誰からも返事こないし
スマホの電源も切ったまま
現実を知るのが怖い
返ってくるのはもっと怖い

メールの返ってこないあなたへ
誰からも必要とされていないなんて思わなくていいんだよ
私が必要としてるとか 無責任なポップスは言うけど聴かなくていい
私はあなたのことなんか何も知らない
でも生きていてほしい
そんなデジタル上のお遊びで 傷ついちゃいけないんだよ
死んじゃいけないんだよ
だってあなたのそばには...

頭の中でも昼休みだよ
何もネタが浮かばない快晴だよ
やっぱり自分には才能なかったよ
昔の家へ 帰りたいなあ...

天才になれなかったあなたへ
普通でいいんだと
いつか思えるよ
だから死ななくていいんだよ
傷つかなくていいんだよ
塞ぎこんで晴れの日を無駄にする必要はないよ
私たちは歴史に残ることなく消えてゆくけど
みんな そうなんだ
地球がなくなるころには
どんな偉人の名前も
残りはしない

あなたには才能がないかもしれない
あなたの名前を呼ぶ人なんかいない
あなたにメールくれる人なんていない
あなたには家族さえないかもしれない
私はあなたを何も知らない
あなたを必要としていない
あなたの名前も知らない
でも 負けないで

こんないい 晴れの日
正午をちょっと過ぎたら
光の当たる場所に立ってみて
あなたを認めてくれる人がいる
あなたを呼んでいる人がいる
家族よりずっと 信じられる誠実な人がいる
あなたのそばには
あなたがいる

あなたはあなたを認めてくれる
あなたはあなたを癒してくれる
あなたはあなたをどんな時でも 守ってくれる

しょっちゅー華

しょっちゅー華

しょっちゅー華

冷し中華

他の人が

「他のも食べたら？」って言う

ありえないんだよ

マヨネーズのない場所では

暮らしていけない

マヨネーズと冷し中華

ノーベル賞だろ

誰がこんな発明をしたのかな

アインシュタインかニュートンか

たぶんそんなに有名な人じゃないけど

しょっちゅう

しょっちゅう

食べてしまうんだ

しょっちゅー華

しょっちゅー華

しょっちゅー華

食べすぎて胃薬飲んだわ

ただのアホ

アホだね

アホだね

アホだね

自分のアホさが大好きだよ

しょっちゅー華

しょっちゅー華

しょっちゅー華

冷やし中華にマヨネーズで

食べたいな

アホだね

アホだね

アホだね

毎食それでもいい

春夏秋冬

いつの季節でもいいや

マヨネーズの好きなだけついた

冷し中華が食べたい

食べたい

食べたい

食べたい

しょっちゅう一華

しょっちゅう一華

しょっちゅう一華

中二病の自分が好きなんだ

午後 1 時

午後 8 時の次には 9 時が来る

9 時の次には 10 時が来る

おやすみの時間だね

午前 5 時の次には 6 時が来る

6 時の次には 7 時が来る

おはようの時間だね

そして午前 7 時の次には 8 時が来て

みんなが動き出す時間だね

私の中の時計はまだ 3 時なのになあ

午前 8 時の次には 9 時が来て

9 時の次には 10 時が来る

ごめん 何もできない

午前 9 時の次には 10 時が来る

ぼーっとしてると 11 時が来る

私の時計は午前 3 時のまま

11 時の次には 12 時が来る

12 時の次には午後 1 時が来る

私の時計は午前 3 時のまま

午後 1 時 眠いけど

何か始めてみよう 何か始めてみよう

昼間に寝てちゃダメだ

何か始めてみよう 何か始めてみよう

何か 何か始めてみよう

ぼーっとしてると次は午後 2 時

一朝一夕にできることなんて

限られてるけど それでいいじゃん

午後 1 時の次には 2 時が来る

2 時の次には 3 時が来る

とりあえずホットケーキでも焼いてみたよ

久しぶりに焼いたな
ちょっと焦げたかも
メープルシロップの匂いがスキだ
自分で作ったマルは花マルだ
午後1時の次には2時が来る
2時の次には3時が来る
今日はホットケーキ焼いたんだ
全国各地に中継してよ
午後1時にホットケーキ
焼いたんだ

何もできない日じゃなかった
何の意味もない日じゃなかった
他の惑星まで中継してよ
午後1時にホットケーキ焼いたんだ

午後8時の次には9時が来る
9時の次には10時が来る
いい夢見たいな
何か文句ある？それでいいじゃん

ホワイト×ブラック

見た目はたぶんホワイトです
姿勢は多少ブラックです
くちびるの形はホワイトです
出てくる言葉はブラックです
手元にあるのはホワイトです
欲しがるのがたまにブラックです
名前のない翼はホワイトです
しおれているのがブラックです

目の輝きはホワイトです
たまに虚ろなのはブラックです
いつものノリはホワイトです
凹むときはブラックです
手のネイルはホワイトです
足のネイルはブラックです
腕の力はホワイトです
怒ったときはブラックです

自分が見えたらホワイトです
いつも考えるのはブラックです
忘れてしまうのはホワイトです
記憶がないのはブラックです
あいさつするのはホワイトです
空気読めないのはブラックです
目が良くなりたいたいのホワイトです
見たくないのはブラックです
好きになるのはホワイトです
すぐ嫌いになるのはブラックです
ツイートはホワイトです
調子が悪いとブラックです

始めるのは ホワイトです
すぐ逃げるのはブラックです
また始めるのはホワイトです
また逃げるのはブラックです

私の名前はホワイトです
ハンドルネームはブラックです
昔の記憶はホワイトです
今いるところはブラックです
血液型はホワイトです
血の使い道がブラックです
誕生日はホワイトです
雪が悲しそうなのはブラックです

心の中はホワイトです
心の外がブラックです
やりたいことはホワイトです
投げやりなのがブラックです
笑顔はホワイトです
素直になれないのがブラックです
将来はホワイトです
目をそらすのがブラックです
歩いていけばホワイトです
途中でやめればブラックです

見えるものは一面ホワイトです
これまでの足跡はブラックです
怖れるものはホワイトです
怖れるのがブラックです
見えるものがホワイトです
見えないものはブラックです
まとめればホワイトです
ホワイトです

街路樹

二重扉の中 シーツの上でずっと体操座り
むき出しのトイレと同居 わりと広い 何もない空間

今君は天国にいて 私は地獄にいる
でも君を恨もうとか妬もうとか 少しもない
幸せになってください

ああ地獄でも
こんなにひどいところじゃないだろう
二重扉の下のわずかな空間が開いて
食事が出てくる
手を洗う場所もなく 飯を食べて 寝るだけ

お誕生日おめでとう
おめでとう おめでとう おめでとう おめでとう
いつか私がこの独房から出られたなら
君の生まれた市の街路樹の
自由で平和で 美しい景色の中を
一緒に歩きたいな

二重扉の中 とり押さえられて
何かよくわからない名前の注射を打たれた
心が痛かった

君の生まれた市の街路樹は
今もさわさわと揺れていますか
君が今いるアパートは
大事なもので溢れていますか
目を閉じても思い出すよ
あの街路樹の下を二人で歩いたこと
夢にも出てくるよ

お誕生日おめでとう

私たちも街路樹も
年をとって古くなっていくんだなあ
あんなに悪ガキだったのに
でも君と一緒に古くなるなら嬉しいよ
おめでとう おめでとう おめでとう おめでとう
大好きな君の生まれた市の街路樹の下を
いつか二人で歩きたいね

ねえ何を話そう？
どこから話していいかわからないよ
沈黙だって癒されるんだ
君の好きなところへ行こう

鉄格子の窓から祈ったんだ
星も何も見えないけど
ありがとう ありがとう ありがとう ありがとう
出逢ってくれてありがとう

君の寢息を守りたい

君の寢息を 守りたい
ふっと そう思ったんだ

不眠気味で
真夜中に起きてたり
午前2時に風呂に入ったり

君にそんな事言っても
「どうしようもない」って言われるだけだろうか

信じて
どうしようもある
どうしようもない事でさえ
乗り越えて 乗り越えてきたんだから

ああ不眠気味の君が寝てる
なんだかすごく嬉しそうに寝てる
睡眠薬のせいもあるだろうけど

君の夢を 守りたい
きっといい夢見てるんだろな
足音たてない
絶対に何の音もたてない
君のためなら 空中だって歩く

君の寢息を 守りたい
もう近寄ることもできないけど
24時間起きているより
寝てる方が楽しいもんな

君の寢息を 守りたい
ふっと そう思ったんだ

どうしようもない事なんてないよ
どうしようもある事ばかりなんだよ

ただ決め付けてるだけ
治らないと
どうしようもない事なんてひとつもないのに

君が少し諦めていた不眠症は
今どうにかかりかけてる
それがわかるから
音立てるのが絶対にやだ

眠れなくて
ずっと諦めてきたんでしょう
真夜中が好きで活動したい人なんていない
どうしようもない事なんてひとつもないのにさ
だって今君は
なんだか楽しそうに寝ている

突然の雨と甘いジャム

朝、いきなり
ザーっていう音がする
雨が降ってきたのかな
まあこんな山間部だから
よくあることかな

とりあえず体操だ体操
頭をくるくる回してみよう
とりあえずシェイクしよう
ジャムしよう

ザーっていう音がする
やっぱり雨じゃないのかな
窓の外晴れてるし
まあこんな田舎だから
何でもありなんだな

ザーっていう音が止む
あーもう朝から何なんだ
寝ボケてるのかな
頭をくるくる回してみよう
とりあえず脳をシェイクしよう
雨だったのか雨じゃないのか考えるだけでムカつく
ベイビー
ジャムしよう

気象庁

気象庁って興味ある？

天気予報を作るところかな

特に興味ない？

停電が長いね

雷注意報とか

今出てるよね

くっついていい？

実は私...

昔

天気予報のお姉さんになるのが私の夢でした

天気図を眺めるのが好きだった 西高東低大好きだった

今

天気予報も気象庁も知らない 明日の予報さえ見えていない

天気は幸せをくれるものじゃないから

雨の日でも 風の強い日でも

君といれば楽しい

台風の日や 雷の日は

抱き合えば楽しい

異常気象警戒情報

竜巻注意情報

緊急地震速報

停電の下で

君と抱き合えば楽しい

気象庁

気象大学校に合格するのが私の夢でした

その夢は叶わなかったけれど 君に出逢えました

懐中電灯の明かり 君が寝てるとなりで

細々とろくでもないことを書いてる暗い人

これでいいのだと思う

天気予報のお姉さんは

紙に書いてあることを言うだけ

気象庁が快晴と言っていたって

美しい天気図をじっと眺めていたって

埋められないものが心にありました

今はもう 過去形です

抱き合って君にささやく昔話です

カレイドスコープ

<http://p.booklog.jp/book/107765>

著者：雨野 小夜美

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tinycolor/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/107765>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/107765>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ